

平成30年度

南陽市中学生

地域間交流セミナー

報告書



南陽市教育委員会

“ゆきえねえねえ”の涙

南陽市教育委員会 学校教育課長 佐藤 政彦

「おかえりなさい！」 沖縄の地について、私にかけてくださった第一声です。一般的には、「ようこそ！」とか「お久しぶり！」といった言葉で迎えてくれるものと考えますが、「いちやばちよーでー(一度会えば皆兄弟の意)」の心を大切にしている沖縄では、歓迎の意を最大限に込めた当たり前のお出迎えであり、一年ぶりの再会を喜んでくださった“ゆきえねえねえ”の優しい心遣いでした。“ゆきえねえねえ”とは、昨年に引き続き、私たちセミナー研修隊を担当してくださったバスガイドさんです。この研修中、ドライバーの“ゆうたにいにい”と共に私たちの学びを支えてくださり、沖縄の歴史はもちろん、住む人の温かさや本研修のテーマの1つである平和について多面的な見方や考え方を示してくださったり、時折、“梶野”の名のとおり、ギャンブル好きな一面をのぞかせてくれたりした素敵なベテランのガイドさんです。

「南陽市と異なる歴史や文化等を有する特色ある地域との交流事業を通して、南陽市を外から見つめ直し、地方創生に向けた愛郷心を醸成すると共に、将来の南陽市を担う自立した人材を育成すること」を大きな目的にした南陽市中学生交流セミナーも、今年で4年目を迎えました。

この度も、4回の事前研修と2泊3日の本セミナーそして1回の事後研修と、限られた時間の中でその目的の達成を目指し、12名の研修生は、自分の殻を破り多少の困難にも怖気付くことなく、さらには引率の先生のハードルの高い指令にも果敢に挑戦しつつ、大きな成長を見せてくれました。

移動のバスの中で、或いは昼食後の食堂の室内で、或いは夕食後のホテルの一室で、そのときそのときの学びの振り返りや仲間の意見・感想に対するディスカッション等、寸暇を惜しんで言葉を伝え合うことを要求しました。初めは、学んだばかりの単語を並べながらそして無難な言葉を選びながらの表現しかなく、表面的な伝え合いがほとんどでした。しかし、現地で本物に触れての学びを通して知識を増やし、見たり、聞いたり、感じたりしながら確実に心に刻み続けたことにより、それまで言葉では表現しきれなかった感情や感動、心の揺らぎが、映像として目に浮かぶような表現に変わっていきました。短期間でこの成長には、大変驚かされました。実体験を心のフィルターを通して咀嚼し、自ら吟味した言葉一つひとつに重みや深みがあり、それが、相手の心にしっかり伝えたいという思いとも重なり、納得感や説得力を満たすものになっていきました。さらには、そのような学びを共有してきた仲間同士の自然な切磋琢磨が、それぞれの表現力に磨きをかけてきたものであるとも感じています。

“ゆきえねえねえ”は、糸満中での交流だけでなく、公設市場の散策等も含め、いろいろな場所で学びの姿をそっと見守ってくれていました。バスに戻れば必ず、「皆が感じたことをシェアしよう」と語りかけ、その都度、心の中に湧き出したいいろいろな思いを言葉にして紡いでくれました。そして、最終日。12名それぞれがお世話になった民泊家庭の「おとうさん」や「おかあさん」との別れを惜しむ姿、また、発車したバスの中から、その「おとうさん、おかあさん」に向かって「沖縄サイコー」と叫びながら手を振っている姿、そして「シェア」して紡いだ12名の学びの重みに感無量となり、“ゆきえねえねえ”は、プロのバスガイドらしくなく、目にたくさんの涙を浮かべていました。ガイドのプロであるからこそ、12名の3日間の大きな成長を真心で受け止めてくれたものと感じています。

「平和とは何か……」。これも“ゆきえねえねえ”が、私たちにもっともっと深く考えてほしいと心から願って発した言葉です。これから、12名それぞれにその答えを見つける旅に挑戦してほしいと願っています。

最後になりましたが、本セミナー事業を実施するに当たり、市内各中学校の校長先生を始めとする各中学校の先生方、特に事前研修会から熱心にご指導いただきました南陽市立沖郷中学校の寒河江佳緒理先生、JTB プラネット取締役社長 佐々木俊様、JTB プラネット 古山純子様に感謝を申し上げるとともに、研修生を快く受け入れていただきました糸満市教育委員会、糸満市立糸満中学校、糸満市観光協会、民泊家庭の方々、“ゆきえねえねえ”と“ゆうたにいにい”、そして、その他多くの関係する皆様方のご理解とご協力に心より御礼を申し上げます。

目次

○はじめに	南陽市教育委員会 学校教育課長 佐藤 政彦	1
○目次		2
○南陽市中学生地域間交流セミナー参加者名簿		3
○南陽市中学生地域間交流セミナー実施要項		4
○参加者説明会資料		7
○事前学習会資料	第1回目	1 1
	第2回目	1 5
	第3回目	1 8
	第4回目	2 1
○南陽市中学生地域間交流セミナー結団式資料		3 0
○事後研修会資料		3 1
○セミナーを振り返って		3 2
○「子どもたちの姿から」	南陽市立沖郷中学校教諭 寒河江 佳緒里	4 5
○アルバム		4 6

平成30年度 南陽市中学生地域間交流セミナー事業 参加者名簿

No	氏名	性別	学 校	ふりがな
1	伊 藤 陽 葵	女	沖郷中学校	いとう ひまり
2	櫻 田 結 羽	女	沖郷中学校	さくらだ ゆいは
3	佐 藤 亜 海	女	沖郷中学校	さとう あ み
4	佐 藤 瑞 姫	女	赤湯中学校	さとう みずき
5	高 橋 美 朋	女	赤湯中学校	たかはし み ほ
6	田 村 花 寧	女	赤湯中学校	たむら はなね
7	安 部 杏 香	女	宮内中学校	あ べ きょうか
8	岡 崎 優	女	宮内中学校	おかざき ゆ う
9	川 合 胡 春	女	宮内中学校	かわあい こはる
10	小 関 紅 加	女	宮内中学校	こせき こ か
11	佐 藤 千 寛	女	宮内中学校	さとう ちひろ
12	鈴 木 琴 音	女	宮内中学校	すずき ことね

※ 引率者名簿

No	氏名	性別	所属・職
1	佐 藤 政 彦	男	南陽市教育委員会・学校教育課長
2	寒河江 佳緒里	女	南陽市立沖郷中学校・教諭
3	安 達 心	男	南陽市教育委員会・指導主査
4	佐々木 俊	男	JTB プラネット・取締役社長

平成30年度 南陽市中学生地域間交流セミナー事業 実施要項

1 目 的

本セミナーは、中学校2年生を対象に、南陽市と異なる歴史や文化等を有する特色のある地域との交流事業を通して、南陽市を外から見つめ直し、地域創生に向けた愛郷心を醸成すると共に、将来の南陽市を担う自立した人材を育成することを目的とする。

2 行 き 先

沖縄県糸満市

3 期 日

平成31年1月17日(木)～1月19日(土) 2泊3日

4 対 象

南陽市内中学校の2年生 *教育委員会引率と旅行添乗員が全日同行

5 募集定員

12名

6 研修内容

- 1) 史跡等の見学や民泊を通して、沖縄特有の文化や風習等に触れるとともに平和について考える。
- 2) 現地中学生との交流を通して、自己の地域に対する考え方を深める。
- 3) 事前・事後の学習において、他校の中学生との主体的・協同的な学びを通して、多面的・多角的な見方や考え方を育成する。

7 日程概要

月日	地名	時間	研 修 内 容
H31 1/17 (木)	南陽市	7:30	南陽市役所集合・出発 ※バスで移動
	仙台市	10:00	仙台空港着 (昼食)
		11:55	仙台空港発 ※飛行機で移動
	沖縄県	15:10	那覇空港着
	糸満市	15:45	那覇空港発 ※バスで移動
		16:30	首里城公園着 全員で視察
		18:30	首里城公園発 ※バスで移動
		19:15	サザンビーチホテル&リゾート沖縄着 チェックイン 宿泊
		19:30	夕食 ミーティング(ふり返りと予習)
		22:00	就寝
1/18 (金)	沖縄県 糸満市	6:00	起床
		7:00	朝食

		8:30	サザンビーチホテル&リゾート沖縄発 チェックアウト ※バスで移動 史跡等の見学 gama 見学～山形の塔～平和祈念公園～(昼食)ひめゆりの塔
		14:45	糸満市内の中学校着 【現地中学生との交流】
		16:15	糸満市内の中学校発
		16:30	道の駅「いとまん」着
		17:30	ホストファミリー宅へ移動 (夕食) 民泊
1/19 (土)	沖縄県 糸満市		(朝食) ホストファミリー宅発
		10:30	道の駅「いとまん」着 【お別れの会】
		11:00	道の駅「いとまん」発 ※バスで移動
		11:30	国際通り／公設市場着 全員で視察
		12:45	国際通り／公設市場発
		13:15	那覇空港着 (昼食)
		14:20	那覇空港発 ※飛行機で移動
	仙台市	16:45	仙台空港着
		17:30	仙台空港発 ※バスで移動
	南陽市	20:00	市役所到着
		20:15	解散

8 参加費用

研修に要する費用(交通費・宿泊費・ガイド料等)は、予算の範囲内において、市が負担する。

9 応募資格 次の要件を満たしているものとする。

- ① 本人が積極的に参加を希望していること
- ② 充実した研修ができる健康状態であること
- ③ 保護者の承諾が得られていること
- ④ 事前・事後の学習会に必ず参加できること。

10 応募方法 希望者は、次の提出書類(様式1～3)に必要事項を記入し、直接または郵送で提出する。

(ア)参加申込書(様式1)

健康確認書欄に健康状態が良好であることの証明を所属の中学校長から受けること。

(イ)作文用紙(様式2)

テーマ『私が地域間交流セミナーを通してつきたい力』(原稿用紙 800 字以内)

(3)保護者の同意書(様式3)

11 応募期間 平成30年 10月29日(月)～11月16日(金)

締切 11月16日(金) 午後5時 必着 ※郵送の場合は、南陽市教育委員会に当日必着

12 参加者の選抜 応募書類による書類選抜及び面接により選抜する。

13 面接について

- ① 日 時 平成30年11月24日(土) 午前9時より
- ② 場 所 南陽市役所 4階 大会議室
- (3)その他 申込者多数の場合、応募書類による一次選抜を行う場合がある。
詳細は後日、面接該当者に直接通知する。

14 参加者の決定 申込者全員に選抜の結果を直接通知する。

15 研修前の準備

参加者には、研修前の事前研修会(4回予定)及び保護者説明会を実施する。

16 参加者決定からセミナーまでのスケジュール(予定)

平成30年11月24日(土) AM	面接選考試験 ⇒ 11/28(水)合格者通知発送
平成30年12月 5日(水)19:00～	参加者・保護者説明会 南陽市役所 大会議室
平成30年12月 9日(日) 9:30～11:45	事前研修会① 南陽市役所 4階 大会議室
平成30年12月23日(日) 9:30～11:45	事前研修会② 南陽市役所 4階 大会議室
平成31年 1月 5日(土) 9:30～11:45	事前研修会③ 南陽市役所 4階 大会議室
平成31年 1月12日(土) 9:30～11:45	事前研修会④ 南陽市役所 4階 大会議室
平成31年 1月15日(火)19:00～	結団式 南陽市役所 4階 大会議室
平成31年 1月17日(木) ～1月19日(土)	本研修
平成31年 1月26日(土) 9:30～11:45	事後研修会 南陽市役所 4階 401/402 会議室

17 研修後の報告 各学校の報告会を設定したり、感想文集としてまとめたりする。

18 その他

参加者は、研修が終了した後にアンケートの記載をお願いしたり、翌年度の募集ポスター作製や研修への参加を依頼したりする場合がある。

19 申込み・問い合わせ先

南陽市中学生地域間交流セミナー事業 実行委員会
【事務局】 南陽市教育委員会 学校教育課 指導係
〒999-2292 山形県南陽市三間通 436 番地の1
TEL:0238-40-3211 fax:0238-40-3388
E-mail:gakkyo2@city.nanyo.yamagata.jp

平成30年度 南陽市中学生地域間交流セミナー事業参加者事前説明会

日 時 平成30年12月5日(水)19:00～

場 所 南陽市役所 4階 大会議室

【進行 事務局】

1 開 会

2 あいさつ

・ 南陽市教育委員会 学校教育課長 佐藤 政彦

3 参会者の紹介(自己紹介)

・ 参加者 ・ 引率者 ・ 事務局等

4 説 明

(1) 平成30年度南陽市中学生地域間交流セミナーの概要

(2) セミナーまでに準備すること

(3) 今後の日程

(4) その他

5 質 疑

6 その他

7 閉 会



南陽市中学生地域間交流セミナー事業事前・事後研修会

1 ねらい

- 南陽市中学生地域間交流セミナー事業が、参加した中学生にとって有意義な事業となるよう、参加者同士の交流や視察先の歴史や文化、交流内容についての理解を深める。
- 研修内容をまとめ、広く発信することで、南陽市民としての自覚を高め、積極的に社会に参画していこうとする意欲や態度を育む。

2 研修内容

事前

- 1) 保護者説明会 H30/12/5(水)19:00～ 南陽市役所 4階 大会議室
 - 教育委員会挨拶
 - 自己紹介(参加者本人・引率者・事務局)
 - 事業説明
 - ・ セミナーの概要について(セミナー事務局)
 - ・ セミナーの詳細と準備について(JTB)
 - ・ 今後の日程
 - 質疑
- 2) 事前研修会① H30/12/9(日) 9:30～11:45 南陽市役所 4階 大会議室
 - 顔合わせ(目的の確認と仲間意識の醸成)
 - ・ 前年度参加者の報告
 - ・ 参加者顔合わせ ※メンバーの交流
 - ・ 沖縄県(糸満市)について学習
- 3) 事前研修会② H30/12/23(日) 9:30～11:45 南陽市役所 4階 大会議室
 - 現地中学生、民泊の方との交流についての学習①
 - ・ 研修先の沖縄県糸満市についての理解 ※山形県南陽市と比較
資料をもとによさ・特色等についてつかむ。
- 4) 事前研修会③ H31/1/5(土) 9:30～11:45 南陽市役所 4階 大会議室
 - 現地中学生、民泊の方との交流についての学習②
 - ・ 現地中学生、民泊の方とのねらいに沿った交流 ※双方向の交流
「こんな交流がしたい。」を考える。
- 5) 事前研修会④ H31/1/12(土) 9:30～11:45 南陽市役所 4階 大会議室
 - 現地中学生、民泊の方との交流についての学習③
 - ・ 現地中学生、民泊の方との交流の詳細確認・リハーサル
 - ・ 事後の研修・成果の発信について
- 6) 出発式結団式 H31/1/15(火) 19:00 南陽市役所 4階 大会議室

事後

H31/1/26(土) 9:30～11:45 南陽市役所 401/402会議室 成果のまとめ、発信について



地域間交流セミナーの目的

- ・ 故郷を思い、将来の南陽市を担う **自立した人材**の育成

◎自立した人材……

- ・ 自分の進む道を**自分の意志で決める**ことができる。
- ・ **広い視野**を持ち**多面的な見方・考え方**ができる。

◇ 南陽市の中学生としての学びを**発信**する！

そのために……

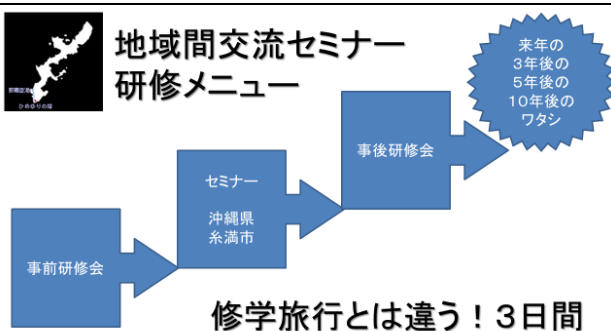
南陽市と異なる歴史や文化等をもつ
特色のある地域と**交流**する。



大事なことは……



地域間交流セミナー 研修メニュー



1日目 1月17日(木)

7:30 南陽市役所出発

↓

11:55 仙台空港発

↓

15:10 那覇空港着

↓

16:30 首里城公園

↓

19:15 サザンビーチホテル&リゾート沖縄



2日目 1月18日(金)

8:30 ホテルチェックアウト

↓

史跡見学 ガマ見学・山形の塔・平和祈念公園

↓

14:45 糸満市内の中学校

↓

※15:00 『交流会』

17:00 対面式

↓

17:30 ホストファミリー宅へ移動



3日目 1月19日(土)

10:00 ホストファミリー宅 発

10:30 お別れの会(観光協会)

↓

11:30 国際通り・牧志公設市場

↓

13:15 那覇空港

↓

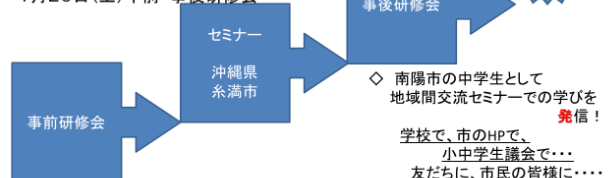
16:45 仙台空港 着

→ 20:00 南陽市役所 着



事前・事後研修会

12月 9日(日)午前 顔合わせ・沖縄を知る
12月23日(日)午前 交流に向けて
1月 5日(土)午前 交流の成功に向けて
1月12日(土)午前 交流のリハーサル
1月26日(土)午前 事後研修会



セミナーまで準備すること

- ・ 体調を整える。
- ・ 日常の授業をしっかりと！
※ セミナーは、“学び”を存分に使う場
- ・ 糸満の中学校との交流の準備 → ♪宿題
※ 伝えたいこと、知りたいこと、比べたいこと……
- ・ 具体的持ち物等の準備

着替えは？ 履物は？ 記録するものは？ お小遣いは？ グループは？
ホストファミリーは？ 一人？……





平成30年度 南陽市中学生地域間交流セミナー事前研修会①

日 時 平成30年12月9日(日)9:30～

場 所 南陽市役所 4階 大会議室

【進行 事務局】

1 開 会

2 団長あいさつ

- ・ 南陽市教育委員会 学校教育課長 佐藤 政彦

3 研修

(1) 本日のねらいの確認

- ① 地域間交流セミナー参加者同士のコミュニケーションを図り、仲間意識を醸成する。
- ② 地域間交流セミナーで学ぶこと、自らの目的意識を確認する。



(2) ワークⅠ 『南陽市中学生地域間交流セミナーを知ろう。』

- ・ 昨年度本セミナー参加者による各学校の発表
- ・ 質疑・意見交換

……………休憩……………

(3) ワークⅡ 『仲間を仲間に紹介しよう。』

- ・ 3人のグループをつくる。
 - ・ 誰が誰を紹介するか決める。
 - ・ 質問し合って、仲間の良さを掘りおこす。
 - ・ 3人で1人ずつの“紹介ポップ”を決める。
 - ・ 紹介し合う(1人1分×3人=3分程度 → × 4グループ=(約12分)
- ※ 仲間の良さを発見しよう。



(4) ワークⅢ 『セミナーで学ぶことを、自らの目的意識を確かめる。』

- ・ これができれば、“目的達成”という自分のハードルを言葉にする。

(5) シェアリング

4 その他

5 閉 会

ワークⅠ 『南陽市中学生地域間交流セミナーを知ろう。』

【発表から……】



ワークⅡ 『仲間を仲間に紹介しよう。』

チーム

メンバー	メモ欄	紹介ポップ
なんよう たろう 南陽 太郎	・柔道部・ゆるきやら好き ・好き嫌が多い。メロンパンが大好き ・妹思いのよき兄。	熱く燃える男 心優しく、燃える男 ミスター 思いやり

【紹介例】

チーム A “心優しく、燃える男” 南陽太郎 さんを紹介します。太郎さんは、現在柔道部に所属し、県大会出場を目指して日々練習に励んでいます。……

※他のチームのよさも見つけよう！





ワークⅢ 『セミナーで学ぶことを、自らの目的意識を確かめる。』

これができたら、“目的達成”という自分のハードルを言葉にする。

このセミナーに申し込んだ動機や、今日の講話をふまえて、今、考えている本セミナーにかける思いを言葉にしよう。

★ 第2回 事前研修会

平成30年12月23日(日) 9:30～11:45 南陽市役所 4階 大会議室

- ・南陽市の特色(魅力と課題)を考える。
- ・沖縄県の特色(南陽市にない魅力を中心に)を考える。
- ・**宿題** 資料を読み、南陽市と沖縄の特色について話し合う準備をしておくこと。

★ 第3回 事前研修会

平成31年1月5日(土) 9:30～11:45 南陽市役所 4階 大会議室

- ・現地中学生とねらいに沿った交流 → 時間は90分
- ・**宿題** 現地中学生とこんな交流がしたい！ についてのアイデアを考えておくこと。

★ 第4回 事前研修会

平成31年1月12日(土) 9:30～11:45 南陽市役所 4階 大会議室

- ・現地中学生との交流 リハーサル。

平成30年度 南陽市中中学生地域間交流セミナー 事前研修会②

日 時 平成30年12月23日(日)9:30～

場 所 南陽市役所 4階 大会議室

【進行 事務局】

1 開 会

2 団長あいさつ

・南陽市教育委員会 学校教育課長 佐藤政彦

3 研修

(5) セミナーに向けての決意を語ろう。

地域間交流セミナーの目的

- ・ 故郷を思い、将来の南陽市を担う
自立した人材の育成

◎ 自立した人材……

- ・ 自分の進む道を自分の意志で決めることができる。
- ・ 広い視野を持ち、多面的な見方・考え方ができる。

◇ 南陽市中中学生としての学びを発信する！

(6) 本日のねらいの確認 ※民泊希望調査記入

① 南陽市の特色(魅力と課題)を考える。

“糸満市の中学生に伝えたい南陽市の魅力”につなげる

② 沖縄県の特色(南陽市にない魅力を中心に)を考える。

“糸満市の中学生に聞いてみたい沖縄県の魅力の理由”につなげる

(7) ワークⅠ 南陽市の特色を考えよう！(◎1で考えましょう。)

『糸満市の中学生に伝えたい南陽市の魅力はなんだろう』

- ・ “私の考え”を付箋に書く。
- ・ グループに分かれ、大判用紙に貼りながら、考えを共有する。
- ・ 分類しながら、キーワードをまとめる。
- ・ 各グループの発表 (各グループ 3 分)
- ・ グループ間発表を受けて、改めて自分の考えをワークシートにまとめる。

……………休憩……………

(8) ワークⅡ 沖縄県の特色を考えよう！(◎2 で考えましょう。)

『糸満市の中学生に聞いてみたい沖縄県の魅力はなんだろう』

- ・ “私の考え”を付箋に書く。
- ・ グループに分かれ、大判用紙に貼りながら、考えを共有する。
- ・ 分類しながら、キーワードをまとめる。
- ・ 各グループの発表 (各グループ 3 分)
- ・ グループ間発表を受けて、改めて自分の考えをワークシートにまとめる。

4 その他

(1) 次回(1/5(土)) までの宿題の確認

- ① 沖縄調べのワークシート
- ② 名刺
- ③ ネーム
- ④ お願い状

(2) 写真撮影

5 閉 会

研修メニュー

- 沖縄特有の文化や風習に触れる。
→ 民泊 ・ 史跡等の見学
- 地域(南陽市)に対する考え方を深める。
→ 現地の中学生との交流
- 多面的、多角的な見方・考え方を身に付ける。
→ 事前・事後の研修



★ワークⅠ 『糸満市の中学生に伝えたい南陽市の魅力はなんだろう』

★ワークⅡ 『糸満市の中学生に聞いてみたい沖縄県の魅力はなんだろう』【10:45】



★ 第3回 事前研修会

平成31年1月5日(土) 9:30～11:45 南陽市役所 大会議室

・現地中学生との交流について

宿題 現地中学生とこんな交流がしたい！ についてアイデアを考えておくこと。

・現地中学生とねらいに沿った交流 → 時間は50分

○「出会い」・「交流」・「別れ」の3場面の内容

「出会い」：どんな出会いにしたいのか

「交流」：できるだけ多くの対話をしたい

「別れ」：どんな別れにしたいのか

※南陽市側が引っ張って会を運営します！ 積極的に動きましょう！

平成30年度 南陽市中学生地域間交流セミナー事業 事前研修会③

日 時 平成31年1月5日(土)9:30～

場 所 南陽市役所 4階 大会議室

【進行 事務局】

1 開 会

2 団長あいさつ

・南陽市教育委員会 学校教育課長 佐藤政彦

3 研修

(1) 本日のねらいの確認 ※ワークシートの回収／お願い状の回収

- ① 現地中学生との交流の内容を決定する。
- ② 地域間交流セミナー当日までに準備することを確認する。

(2) ワークⅠ 現地中学生との交流について

『“こんな交流がしたい”という考えを共有する。』

- ・ 決まっていることを確認する。
- ・ グループで協議
- ・ グループ間発表を受けて、現地中学生との交流内容を決定する。

※ こちらの糸満市の中学生をリードします！ 一人一人の積極性が大変重要です！

○「出会い」・「交流」・「別れ」の3場面の内容

「出会い」:まずはどんな出会いにしたいのか ※名刺を活用しましょう。

- ・短い時間で、自分たちのことを少しでもわかってもらえるには・・・
- ・その後の活動を和やかに進められるようにするためには・・・

「交 流」:①できるだけ多く発信したい

だとすると、代表者か or 分担しながら全員か
パソコンを使用か or 手作り資料を使用か or スピーチのみか

②できるだけ多くの対話をしたい

だとすると、3人対全員で討論 or 1人対13人のグループ協議か
途中で相手を替えて多くの意見を聴く or 同じ相手と深く対話する

「別 れ」:どんな別れにしたいのか

- ・貴重な時間をいただいた学校へ、生徒へどうする？
- ・今後も関わりをもち続けたい。

地域間交流セミナーの目的

- ・ 故郷を思い、将来の南陽市を担う

自立した人材の育成

◎自立した人材・・・

- ・ 自分の進む道を自分の意志で決めることができる。
- ・ 広い視野を持ち、多面的な見方・考え方ができる。

◇ 南陽市中学生としての学びを発信する！

……………休憩……………

(3) ワークⅡ 『当日までに準備することを確認する。』

- ・ スケジュールの確認
- ・ 役割分担

4 その他 ・名刺／ネーム作成の確認

5 閉 会

研修メニュー

- ・ 沖縄特有の文化や風習に触れる。
→ 民泊 ・ 史跡等の見学
- ・ 地域(南陽市)に対する考え方を深める。
→ 現地の中学生との交流
- ・ 多面的、多角的な見方・考え方を身に付ける。
→ 事前・事後の研修

★ワークⅠ 現地中学生との交流・・・『“こんな交流がしたい”という考えを共有する』

- 期 日 平成31年1月18日(金)
- 訪問校 糸満市立糸満中学校 ※沖縄県糸満市の中学生との交流
- 時 間 14:35～15:25【交流:50分】
- 交流のイメージ

14:15 14:35 15:25 15:45

・出会い 交流会【50分】 ・別れ
・オープニング ・フィナーレ

- ※ テーマは何？
- ※ 交流会の主体は、南陽市の中学生！
- ※ 自分がこのセミナーで何を目的とするのか、ということを考えよう。

◎①進行・②代表挨拶・③御礼の言葉

◎ 全体で？ グループで？ 1対？で？ 話し合う？ 体を動かす？ 歌う？……

※ 南陽市の“これから”、自分の“これから”につなげるような問いができるか！

※ 持っていくものは？ 作っていくものは？ お土産は？



★ ワークⅡ 『スケジュールを確認する。』

6	7	8	9	10	11	12
						事前 研修会④
13	14	15	16	17	18	19
		結団式 19:00～		★地域間交流セミナー		
20	21	22	23	24	25	26
						事後 研修会

『役割分担を決める。』

	場面	生徒名
1	15日結団式 進行	佐 藤 瑞 姫
2	15日結団式 代表挨拶	川 合 胡 春
3	17日出発式 進行	鈴 木 琴 音
4	17日出発式 代表挨拶	伊 藤 陽 葵
5	18日糸満中到着時 進行	佐 藤 千 寛
6	18日糸満中到着時 代表挨拶	小 関 紅 加
7	18日糸満中出発時 進行	岡 崎 優
8	18日糸満中出発時 代表挨拶	櫻 田 結 羽
9	18日民泊受入れ式 代表挨拶	田 村 花 寧
10	19日民泊お別れの式 代表挨拶	佐 藤 亜 海
11	19日 帰りの会 進行	高 橋 美 朋
12	19日 帰りの会 代表挨拶	安 部 杏 香

～ メモ ～

★ 第4回 事前研修会

平成31年1月12日(土) 9:30～11:45 南陽市役所 4階 大会議室
・現地中学生との交流について(リハーサル) 等

★ 結団式

平成31年1月15日(火)19:00～ 南陽市役所 4階 大会議室
◎・進行 ・代表決意の言葉

平成30年度 南陽市中学生地域間交流セミナー事業 事前研修会④

日 時 平成31年1月12日(土)9:30～

場 所 南陽市役所 4階 大会議室

【進行 事務局】

1 開 会

2 団長あいさつ

佐藤 政彦 学校教育課長

3 研修

(1) 本日のねらいの確認

糸満中学校との交流の進め方を確認する。(ワークⅠ)

平和について考える。(ワークⅡ)

地域間交流セミナーの目的

- ・ 故郷を思い、将来の南陽市を担う
自立した人材の育成
- ◎ 自立した人材……
 - ・ 自分の進む道を自分の意志で決めることができる。
 - ・ 広い視野を持ち、多面的な見方・考え方ができる。
- ◇ 南陽市中学生としての学びを発信する！

(2) ワークⅠ 『糸満中学校との交流の進め方を確認し、リハーサルをしよう！』

(ア) 前回決まったことを確認する。 ※テーマは何か？相手本位で考えているか？山形 or 南陽市？

(イ) 必要な準備をする。

(ウ) リハーサルをする。

◎この交流会は「どうなれば」成功？

・ 自分が・・・

・ 参加したみんなが・・・





平成30年度 南陽市中学生地域間交流セミナー事業
糸満市立糸満中学校との交流会について(案)

- 1 期 日 平成31年1月18日(金)
- 2 訪問校 糸満市立糸満中学校 第2学年
- 3 時 間 14:35～15:25
- 4 内 容

14:15～14:35	学校到着 進行(代表生徒) ・あいさつ(代表生徒) ・糸満中学校さんより ・本日のプログラムの確認 ・準備
14:35～15:15	交流会 ○4つの学級に3人ずつ分かれての交流会を行います。 ○自己紹介をしてから交流会を始めます。(南陽市の生徒は名刺を準備する予定です。) ○交流の内容は、各学級によって聞きたいこと、話したいことが違いますが、事前研修では以下のようなことが出されています。 ・平和や戦争についてどう考えているか ・言葉(方言)について ・沖縄県の食文化の特徴について ・気候等の違いによる生活習慣の違い ・産業や観光業の特色について ・糸満市に伝わる伝統文化について など ○糸満中学校の生徒の皆さんからも自由に質問や意見を出していただけるとありがたいです。生徒の自由な意見交流を期待しています。

・4つの学級に3人ずつ(次のページ)お邪魔させていただきます。

・事前に名簿をいただけると大変ありがたいです。

15:35～15:55	学校出発 進行(代表生徒) ・片付け ・あいさつ(代表生徒) ・糸満中学校さんより ・写真撮影
-------------	--

5 その他

南陽市の中学生が進めるように計画しています。沖縄県や糸満市の様子を教えていただきながら、南陽市に生かせることを学んできたいとの目的を生徒自身が抱いております自由闊達に意見交流ができればと思っております。

【A】グループ 氏名【伊藤 陽葵、櫻田 結羽、佐藤 亜海】

14:35～14:52	【出会い】 1 自己紹介(7分) ・名刺交換→自己紹介プリント配付 2 糸満中学校の方から(10分) ・冬休みの宿題を活かして、沖縄県や糸満市、糸満中をご紹介いただく。
14:52～15:12	【交流】 3 南陽市の紹介(3分) ・パワーポイント視聴 パソコン・プロジェクター・スクリーン等ご準備いただく。 4 沖郷中学校の紹介「〇×クイズ」(7分) ・パワーポイント視聴 パソコン・プロジェクター・スクリーン等ご準備いただく。 5 花笠踊り(10分) ・最初に踊るのは南陽市の中学生→糸満中学校さんに掛け声を教え、掛け声を出してもらい踊る。→踊りの一部分を教え一緒に踊る。 花笠は持参。カセットをご準備いただく。
15:12～15:25	【別れ】 6 お土産を配布する(7分) ・お土産についての説明をしながら交流を深める。 7 糸満中学校の方から ・代表生徒に感想等を発表いただく。 8 お礼の言葉(1分) ・代表生徒が簡潔にお礼を述べる。 ※写真撮影をお願いします。

【B】グループ 氏名【佐藤 瑞姫、高橋 美朋、田村 花寧】

14:35～14:40	【出会い】 1 自己紹介(5分) ・名刺配付
14:40～15:18	【交流】 2 方言クイズ&レクチャー「寸劇」(8分) ・3問から5問出題する。

	3 花笠踊り(5分) ・踊るのは南陽市の中学生→糸満中学校さんに掛け声を教え、掛け声を出してもらい踊る。 花笠は持参。カセットをご準備いただく。 4 糸満中学校の方から(10分) ・冬休みの宿題を活かして、沖縄県や糸満市、糸満中をご紹介いただく。 5 質疑応答(15分) ・3人対学級で質疑応答を行う。積極的な姿勢で活発な議論になるようお願いします。
15:18~15:25	【別れ】 6 糸満中学校の方から(3分) ・代表生徒に感想等を発表いただく。 7 お礼の言葉(3分) ・代表生徒が簡潔にお礼を述べる。 8 お土産を配布する(1分) ・お土産についての説明をしながら交流を深める。 ※写真撮影をお願いします。

【C】グループ 氏名【安部 杏香、岡崎 優、川合 胡春】

14:35~14:45	【出会い】 1 自己紹介(3分) ・名刺交換→自己紹介プリント配付 2 じゃんけんゲーム(7分) ・南陽市の中学生に勝った糸満中学校の方から自己紹介いただく。
14:45~15:15	【交流】 3 糸満中学校の方から(10分) ・冬休みの宿題を活かして、沖縄県や糸満市、糸満中をご紹介いただく。 4 自作クイズ(10分) ・南陽市の紹介を兼ねてクイズを行う。内容は、方言、宮内中学校、南陽市などについて 5 質疑応答(15分) ・3人対学級で質疑応答を行う。積極的な姿勢で活発な議論になるようお願いします。
15:15~15:25	【別れ】 6 糸満中学校の方から(5分) ・代表生徒(2名程度)に感想等を発表いただく。 7 お土産を配布する(3分) ・お土産についての説明をしながら交流を深める。 8 お礼の言葉(2分) ・代表生徒が簡潔にお礼を述べる。 ※写真撮影をお願いします。

【D】グループ 氏名【小関 紅加、佐藤 千寛、鈴木 琴音】

14:35～14:45	【出会い】 1 自己紹介(10分) ・名刺配付 ・パワーポイント視聴 パソコン・プロジェクター・スクリーン等ご準備いただく。
14:45～15:15	【交流】 2 方言クイズ(5分) ・パワーポイント視聴 パソコン・プロジェクター・スクリーン等ご準備いただく。 3 山形県、南陽市の紹介(10分) ・パワーポイント視聴 パソコン・プロジェクター・スクリーン等ご準備いただく。 4 糸満中学校の方から(10分) ・冬休みの宿題を活かして、沖縄県や糸満市、糸満中をご紹介いただく。 5 質疑応答(5分) ・3人対学級で質疑応答を行う。積極的な姿勢で活発な議論になるようお願いします。
15:15～15:25	【別れ】 6 お土産を配布する(5分) ・お土産についての説明をしながら交流を深める。 7 糸満中学校の方から(2分) ・代表生徒(2名程度)に感想等を発表いただく。 8 お礼の言葉(3分) ・全員が簡潔にお礼を述べる。 ※写真撮影をお願いします。

(3) ワークⅡ 『沖縄のことを学び、平和について考えよう！』
 考えたことをメモしよう。



(4) その他 持ち物を確認する。 ☆帰ってきたら報告書を書きます！

4 その他

5 閉会

出発式

1 開会

2 「おはようございます」のあいさつ

南陽市立_____中学校 2年 _____

3 団長の言葉

南陽市教育委員会 佐藤 政彦 学校教育課長

4 セミナー参加者代表のあいさつ

南陽市立_____中学校 2年 _____

5 激励の言葉

南陽市教育委員会 教育長 長濱 洋美 様

6 引率の JTB の方より (佐々木 俊さん)

7 引率の先生より (安達 心先生)

8 「いってきます」のあいさつ

南陽市立_____中学校 2年 _____

9 閉会

研修メニュー

- 沖縄特有の文化や風習に触れる。
→ 民泊・史跡等の見学
- 地域(南陽市)に対する考え方を深める。
→ 現地の中学生との交流
- 多面的、多角的な見方・考え方を身に付ける。
→ 事前・事後の研修

解散式

1 開会

2 「ただいま」のあいさつ

南陽市立_____中学校 2年 _____

3 団長の言葉

南陽市教育委員会 佐藤 政彦 学校教育課長

4 セミナー参加者代表のあいさつ

南陽市立_____中学校 2年 _____

5 ねぎらいの言葉

南陽市教育委員会 教育長 長濱 洋美 様

6 引率の JTB の方より (佐々木 俊さん)

7 引率の先生より (安達 心先生)

8 「さようなら」のあいさつ

南陽市立_____中学校 2年 _____

9 閉会

民泊 受入式・お別れ式

平成 31 年 1 月 18 日（金）～19 日（土）

	時間	日程	食事
一 日 目	15:45 ～ 16:00 ～ 16:30 ～	民家集合時間（道の駅いとまん情報館） 受入式 （道の駅いとまん情報館） ①歓迎のあいさつ・・・糸満市商工観光課 ②学校引率者代表あいさつ・・・ 南陽市教育委員会 学校教育課 佐藤課長 ③生徒代表あいさつ・・・ 南陽市立赤湯中学校 2年 田村 花寧 ④受入家庭の紹介 ～民家の自家用車にて各家庭へ解散～ ～生活体験～ 民家と一緒に共同調理体験（夕食作り） 入浴・沖縄の文化体験 ～就寝～	夕食
二 日 目	朝 10:30 ～	家族みんなで朝食！ 各家庭の生活に合わせた体験交流 お別れ式 （糸満市役所南側入り口） ①初めのあいさつ ②学校引率者代表あいさつ・・・ 南陽市教育委員会 学校教育課 佐藤課長 ③受入家庭代表あいさつ・・・鈴木 洋子 様 ④生徒代表あいさつ・・・ 南陽市立沖郷中学校 2年 佐藤 亜海 ⑤サプライズ ⑥記念撮影	朝食

平成30年度南陽市中学生地域間交流セミナー事業 日程

[illegible]

★ その他 『持ち物を確かめよう』

Check	NO	持ち物・服装	備考
	1	学校の制服	セミナー中は、基本的に学校の制服で行動します。
	2	学校のジャージ	ホテルや民泊するお宅の中、ガマ見学时等に着用します。
	3	下着・靴下等	2泊3日分用意しましょう。
	4	着替え	基本的に制服で行動しますが、暑さや寒さ等の対策に必要なと思うものを準備してください。
	5	洗面用具・タオル等	個人で使うものです。 必要があれば、ドライヤー等も用意しましょう。
	6	薬	必要な人のみになります。旅行中に用意することはできませんので注意してください。 いつも飲んでいる薬、虫除け等を準備しましょう。
	7	軍手・帽子	見学时に着用します。安全面も考慮して選びましょう。
	8	靴	履きなれた、歩きやすい運動靴等を準備しましょう。
	9	おこづかい	10,000 円程度。買い物をする時間は限られています。また、暑さ対策として、飲み物等を購入する場合があります。金種を分けて持参しましょう。
	10	懐中電灯	見学地で使いますので、各自1つ持参しましょう。頭につけるタイプのものが望ましいです。
	11	デジカメ等 記録媒体	写真等を撮影し、研修を記録できるように準備しましょう。新たに購入して準備する必要はありません。南陽市に帰ったら、報告書を作成します。記録は忘れずに行うようにしてください。
	12	研修用具	筆記用具や事前学習で使用した資料、自分で集めた資料等、持っていく記録しましょう。
	13	雨具	ウィンドブレーカーや折りたたみ傘等、荷物が大きくならないように工夫しましょう。
	14	エプロン・三角巾	民泊家庭で使用します。
	15	修学旅行 NAVI おきなわガイドマップ	参加者説明会や事前学習で配付した資料を見ながら行動します。
	16	腕時計	新たに準備する必要はありません。

※事前説明会資料も参照してください。

★ 地域間交流セミナー結団式

平成31年1月15日(火)19:00～

南陽市役所 4階 大会議室

★ 事後研修会

平成31年1月26日(土) 9:30～11:45 南陽市役所 401/402 会議室

平成30年度 南陽市中学生地域間交流セミナー事業 結団式

日 時 平成31年1月15日(火)19:00～

場 所 南陽市役所 4階 大会議室

【進行 赤湯中 佐藤 瑞姫】

1 開会のあいさつ

2 教育長あいさつ 南陽市教育委員会 教育長 長濱 洋美

3 セミナー参加者紹介

① 団 長

② 引率者

③ セミナー参加中学生【自己紹介】

学校名・氏名・セミナーに向けて一言

4 セミナー参加者代表挨拶【宮内中 川合 胡春】

5 激励の挨拶 南陽市長 白岩 孝夫 様

6 閉会のあいさつ



平成30年度 南陽市中学生地域間交流セミナー事業 事後研修会

日 時 平成31年1月26日(土)9:30～

場 所 南陽市役所 401/402会議室

【進行 事務局】

1 開 会

2 団長あいさつ 佐藤 政彦 学校教育課長

3 研修

(1) 本日のねらいの確認

セミナーを振り返り、自分が発信する内容をはっきりさせる。

セミナーを振り返り、自分が発信する内容を整理する。

ワークⅠ 一番心に残ったこと。

現地で見聞きしたことや資料から考えたことを交流する。

ワークⅡ 糸満中学校交流会感想文の清書

民泊家庭へのお礼状の清書

地域間交流セミナーの目的

・ 故郷を思い、将来の南陽市を担う

自立した人材の育成

◎自立した人材……

・ 自分の進む道を自分の意志で決めることができる。

・ 広い視野を持ち、多面的な見方・考え方ができる。

◇ 南陽市中学生としての学びを発信する！

(2) ワークⅠ “一番心に残ったことは何だろう？”

○ 一番心に残ったことをキーワードで表そう。

○ セミナーで身につけた力をつかう ディスカッション。

・ 現地で見聞きしたことや資料から感じた思い

誰に・・・どんなことを・・・

どんな風に・・・

「私は、こんなことを～に伝える。」



(3) ワークⅡ 糸満中学校交流会感想文の清書

民泊家庭へのお礼状の清書

4 その他

・学校ごとの報告会：市教委から依頼 → 実施 → 報告(アンケート)

・【連絡】 セミナー全体を通した感想文 1200字程度 提出(2・12)→ 報告書

5 閉 会



セミナーを振り返って





生き方をあらためて

南陽市立沖郷中学校 2年 伊藤 陽葵

3日間。長いようで短い南陽市中学生地域間交流セミナー。当日までに4回の事前研修会などを通して、12名の絆は深まっていきました。

沖縄で受ける五感の刺激は、どれも想像を超えるもので、どれも深く印象に残るものでした。今回、このセミナーに向けての私の大きな目標は、「自力解決の力をあげること」と「自分に自信をもつこと」と「五感で感じ多面的な見方ができるようになること」でした。この3日間は、私にとって、3つの目標に近付くとともに自分自身の生き方をあらためる大きなきっかけとなりました。

私が、貴重な3日間の中で特に印象深く心に残ったのは、平和祈念公園を見学した時のことです。私が見た景色は、すべてが透き通っていて、どこまでも続いていました。しかし、バスガイドさんから戦争の話をお聞きした時は、血の気が引く思いがしました。沖縄戦では、米軍に追いつめられた住民などが、崖から転落してしまったり、爆撃によって多くの方が命を落としたりしたそうです。ビーチとして利用されている場所も、血に染まっていたのかもしれません。目の前の美しい海が、「スーサイドクリフ＝自殺の崖」と呼ばれていたことを知り、今のこの平和な景色は、礎となった方々の力によって作られたものなのだと実感しました。あらためて、自分を戒めることもできました。平和の象徴とされる礎の波は、沖縄戦で亡くなったすべての人々の名前が刻まれていて心に残っています。当たり前前に生きていることが、「幸せ」だと噛みしめることができました。また、「死者の声を聞いて育つ」と言われるモモタマナの木にも、自然に惹きつけられました。そして、「山形の塔」は、山形県民兵士の方々の終焉の地に建てられました。花を手向けて手を合わせた時、胸がしめつけられ心臓の音が聞こえました。

平和学習を終えた後、糸満中学校との交流がありました。何を話そうか、何を聞こうか、直前まで緊張が解けないままでしたが、その緊張も糸満中学校の皆さんが温かく迎え入れてくれたおかげですぐにほぐれ、思いのままに話すことができたり、糸満の良いところや歴史を吸収したりできました。また、山形の良いところや方言などを、クイズ形式で糸満中学校の皆さんに知ってもらうことができました。交流することでしか得られない知識や、直接の関りを通してしか共有できないことを学べたので良かったです。

今回の経験を通して、特に、「平和とは何か？」を実際に五感で感じ取り、山形に帰ってきてから、自分が息をしていることや、家族が家で待っていてくれること、平日には学校があることなど、どれも今まで当たり前にあったものすべてが沖縄に行って当たり前ではないのだと気づき、今までより更に視野が広がりました。これからの生活で自分の生き方をあらためていきます。

今回は、本当にありがとうございました。



一生の思い出

南陽市立沖郷中学校 2年 櫻田 結羽

飛行機から降りた瞬間、山形とは違う景色が一面に広がりました。ついに始まった中学生地域間交流セミナー。私は、3日間で様々なことを学び、成長することができました。

1日目の首里城見学では、首里城全体が世界遺産だと思っていましたが、一部が世界遺産だと知り驚きました。首里城の中にある門の一つひとつに役割があるなど、首里城の見学で沖縄の歴史について知ることができました。

2日目の平和学習では、戦争の悲惨さを自分の目で感じるすることができました。轟壕の見学では、当時の苦しい生活の毎日だと、死体を見ても何とも思わなくなるなど、今の私には想像ができないほどあり得ない生活だったことがうかがえます。ガマの中でライトを消した時、隣の人の顔も見えず本当に怖かったです。平和祈念資料館では、目を背けたくないような資料や映像がたくさんあり、戦争の恐ろしさに衝撃を受けました。しかし、このような資料は、戦争の恐ろしさだけでなく、平和の大切さを私たちに伝えているのだということも学びました。教科書に載っている戦争の記録は、ごく一部であり、実際に見学しないとわからないことがたくさんありました。「戦争」という辛い過去があったからこそ、今の「平和」があるということをあらためて実感しました。

糸満中学校との交流では、お互いの学校紹介をしたり花笠を踊ったりして、学びの深い交流になりました。糸満中学校も沖郷中学校も、沖縄ハーレーや芋煮会など郷里を大切にしている行事を行っていると感じました。民泊では、最初は他人の家に泊まることに不安がありました。しかし、私たちを家族として迎え入れてくださったおかげで、一気に不安がなくなり、楽しい時間を過ごすことができました。海やガラス村に連れて行っていただいたり、サーターアンダギーやジーマミー豆腐を作ったりしたことは、本当に楽しかったです。一緒にご飯を作って、「クワッチーサビラ」と言って食べた時間は、忘れられない思い出です。

3日目に行った国際通りでは、沖縄の気候を活かして作られた果物や、色鮮やかな魚など、初めて見るものばかりが売られていて驚きました。国際通りは、人を魅了させる場所だと改めて感じました。沖縄にはこのような場所がたくさんあるからこそ、観光地として人気があるのだと思いました。

私は、事前、事後の研修とセミナーを通して、共感することの大切さを学びました。他の人の意見に耳を傾け、それに共感することでさらに深い学びが得られることがわかりました。この共感して学びを深めることをこれからも大切にして生活していきたいです。バスガイドさんや民泊の家族、セミナーで出会った方々から学んだこと、自分の目で見た戦争の悲惨さ、平和を願った方々の思いなど、学んだだけで終わるのではなく、学んだことを自分から発信していきたいです。



出会いから学んだこと

南陽市立沖郷中学校 2年 佐藤 亜海

私は、このセミナーを通してたくさんの方々と出会い、付けたかった「自分を表現する力」、「多角的・多面的な見方」、そして、「平和とは何か？」について学ぶことができ、実りある3日間だったと思います。

平和学習に取り組んでみて、考えががらりと変わりました。自分の今の生活に満足しすぎており、「当たり前」の大切さを見失っていたと思います。資料などを見てみると、ついで目を背けたくなるようなものばかりで戦争の恐ろしさを改めて感じることができました。しかし、この資料は戦争のつらさだけではなく、平和の大切さを伝える資料であるということも学びました。首里城見学や平和祈念公園見学を通して、沖縄の方々は戦争が起きたから平和を考えたのではなく、元々平和を大切にしている人々なのだと学びました。

その後、糸満中学校の方々との交流を行いました。服装や行事、方言の違いに気づき、楽しいひとときを過ごすことができました。また、お互いの地域文化を発表しあい、キャーシーの魅力を知るとともに山形の花笠の楽しさにも改めて気付きました。交流の途中、一年生の女子生徒が平和祈念大使として、「平和とは何か？」について語ってくれました。彼女が思う平和、それは、空や海がきれいなこと。それを聞き、すごく考えさせられました。私は、そんなことは当たり前であるとはしか思ってなかったからです。沖縄の中学生は平和学習を通して、昔沖縄で起こったことなどを学習し、一人ひとりが平和について考えを深めていると知りました。糸満中学校から、毎日の当たり前＝「奇跡が重なった幸せ」だと気付かせてもらいました。交流することができたことは幸せだと感じました。

夜の民泊では、久保田ナエ子さんの家に泊めていただきました。「ナエちゃん」という風に呼ばせていただき、家族のように接し大変過ごしやすかったです。普段体験することのできないフォトフレーム作りや、お守り太鼓作り、三線講座など沖縄の文化が詰まったことを体験できました。南陽の魅力や方言についても伝えることができ、ナエちゃんも楽しそうに聞いてくれてうれしかったです。お別れ式ときには、ナエちゃんの家で習った三線を発表したり、歌を歌ったりすることができたこともとても大切な思い出です。

私は、今回たくさんのことを学びました。命の尊さ。沖縄の方言一つ一つに深い意味が込められていること。そして、平和を大切にしていること。石碑一つ一つに込められた平和への訴え。本物を見ることで感じられること。様々なことにも自分たちで考え、臨機応変な対応すること。自分を表現することの大切さ。数えきれないほどのたくさんの学びを得ました。そして、沖縄の魅力を知るとともに南陽の魅力について改めて気がつき、私の住んでいる南陽を大切にしていきたいと改めて思うようになりました。私は、今回の学びを身近な人から発信していきたいと思います。そして、一人ひとりが平和について考え、大げさに言うと日本、世界へと笑顔が広がっていけばいいと思います。私が考える平和。それは、「何気ない日常を大切に過ごすこと。」これを大切にしてお過ごしていきたいです。



私から発信していく

南陽市立赤湯中学校 2年 佐藤 瑞姫

不安と期待が入り混じった中で迎えたこのセミナーで、様々なことを感じ、多くのことを吸収した3日間となりました。事前研修会で決めた、戦争について知り、考えを深め、私から発信すること、広い視野を持ち、自分で判断する力を付けることの2つの目標を持ち、沖縄に向かいました。

私は、3日間で実際に資料館を訪問し、実物を見たことで、戦争について深く考えることができました。特に印象に残っている言葉は、「戦争は人間を人間でなくする。」という言葉です。戦争がおこってしまったら、軍の命令に従い、自分の心を表すことができなくなると聞きました。戦争は何もかもを奪い、変えてしまうのだと改めて気付くことができました。

平和祈念公園では、敵、味方関係なく名前が刻まれている平和の礎や、世界地図が描かれている平和の泉がありました。沖縄から平和の思いを伝えていこうという思いが込められていました。周囲は、本当にここで戦争があったのかと、疑ってしまうほど美しい場所でした。この美しい景色を保つためにも、一人ひとりが戦争をおこさない努力をしていかなければならないと強く思いました。

糸満中学校との交流会では、40名のクラスに入って交流しました。始めに私たちから自己紹介、方言クイズ、花笠踊りの披露を行いました。手拍子をしてもらい、大変盛り上がりしました。糸満中学校の人たちから「今まで山形にほとんど興味がなかったが、興味がわいた。」などの感想をもらいました。交流によりお互いの良さを知るとともに、南陽を見直すきっかけになりました。

民泊では、本当の家族のように接してくださいました。サーターアンダギーやジーマミー豆腐を作る体験をし、とても楽しい時間を過ごすことができました。上原さんは、とても優しく温かい方でした。お別れ式が近づくと、私は寂しさから隣を離れませんでした。私にとって、大切な体験となりました。

この3日間を通して、2つの目標を達成することができました。3日間を過ごす中で、成果と課題を出し合い、次の日につなげることができました。仲間と意見を共有することを大切にすることで、視野を広げることができました。沖縄の方々の温かさに触れ、私の心も温かくなりました。多くのことを学ぶことができたこのセミナーは、仲間や引率の方、家族など様々な方々の支えがあったからこそだと思いました。この瞬間は当り前ではなくて、私たち一人ひとりが平和な世界へとつくりあげ、守っていかなければいけないと思いました。そのためには、いただいた命を大切にし、犠牲になってしまった方々の分まで、今を一生懸命に生きていきたいです。セミナーで学んだことを、私から発信していきたいです。



思いやりの心を世界へ

南陽市立赤湯中学校 2年 高橋 美朋

私は、南陽市中学生地域間交流セミナー事業における5回の事前、事後研修会と、当日2泊3日という少ない時間の中で、五感をフルに使って学びを深めることができました。私は、この研修で目標にしていた、コミュニケーション能力の向上、人前で話せる力を身に付けること、平和について考えることの3つをすべて達成することができました。

私は、3日間のうち2日目が一番印象に残っています。平和祈念資料館で見た写真や映像は、まるで自分が沖縄戦にいたように感じるほどリアルで、改めて戦争の悲惨さ、恐ろしさを実感しました。バスガイドさんがおっしゃっていた言葉の中に、「戦争は人間を人間でなくす。」という言葉がありました。私は、この言葉を受けて、もう二度と戦争をおこしてはならないと思いました。平和祈念公園では、沖縄戦で亡くなったすべての方の名前が刻まれている平和の礎、沖縄から水が湧き出ている平和の泉などが設置されていました。平和の泉では、沖縄の地から平和を広げようという意味が込められています。平和の礎がジグザグになっているのは、平和の波を表しているそうです。沖縄戦があったからこそ、今はこんなに平和なのだと感じました。

糸満中学校との交流会は3人対40人という初めての体制でしたが、中身の濃い良い交流をすることができました。相手の人数が多いということもあり、全員と会話することはできませんでしたが、山形のイメージや沖縄のことなどについて意見交流ができました。沖縄の歴史を発表してくださり、これまで学んできたことが更に記憶に残りました。私たちからは、花笠踊りを披露しました。手拍子までしていただき、とても充実した交流会になったと感じました。

民泊では、鈴木さん家族にお世話になりました。家に着くまでとても緊張していましたが、気さくに話しかけてくださり、不安も徐々に薄れて楽しい時間を過ごすことができました。作ったことのない伝統的なお菓子作りを通して会話も弾みました。作り方のコツなども教えていただき、本当の家族になれたような気持ちになりとても嬉しかったです。そして、「第二の故郷は沖縄だよ。」と言っていたき、沖縄の方の温かさ、優しさを実感することができました。民泊の中で一番楽しかったことは、話をしたり聞いたりしたことです。山形のことも発信できて大きな学びを感じられる時間になりました。

私は、この3日間で、様々なことを教えていただきました。そして、3つの目標を達成することができました。私は、今回感じたこと、思ったことを発信しなくてはならないと思っています。現在、実際に戦争を体験された方の体験談は、徐々に聞けなくなっているそうです。これから二度と戦争をおこさないためにも、他の人に伝えて戦争のことを忘れてはならないと思っています。今があること、当たり前のことにも感謝しなければならぬと思います、そして、人への思いやりの心を持って生きなければならないと思っています。



学びを吸収して

私達の成長へ

南陽市立赤湯中学校 2年 田村 花寧

このセミナーに参加するにあたっての私の目標は、「コミュニケーション能力の向上」でした。自分の語彙を増やし、初対面の方ともコミュニケーションをとることが目標でした。また、その交流の中で、平和についてもしっかりと学んでくることが、私はこの目標を達成できたと思います。

三日間の沖縄での研修では、やはり戦争についての学習が多かったです。轟壕は寒いよりも少し蒸し暑いと感じる温度なのに、悪寒のようなものを感じ鳥肌が立ちました。現地のガイドさんが言うには、「食料がないため水で飢えをしのいでいた。」「ろうそくを食べていた。」「泣き声で敵に見つかってしまうので母親が自分の子供を殺した。」など、今では想像できない話でした。懐中電灯の光を全て切って見ると、目を閉じた時よりも暗くて、とても心細く恐怖を感じました。平和祈念公園で見た資料やビデオは、戦争の悲惨さを物語っていました。置いてある写真には、傷ついた人々が写っており、胸が苦しくなるようなものでした。また、展示されていた遺品には、名前が彫ってある物、くし、入れ歯などがあり、一般住民の犠牲者が多いのがとてもよく分かりました。展望台からの景色は、綺麗な海と自然に包まれておりとても癒される空間でした。戦争を経て平和を大切にする気持ちが、このような素晴らしい景色を作ったのだと思います。今があることがとても幸せということのを忘れず、一生懸命に生きていかななくてはならないと思いました。

糸満中学校との交流会では、約四十名との交流だったのでとても緊張しました。しかし、糸満中学校の方々が優しく拍手で迎えてくださり、楽しんで交流会を進めることができました。山形の方言クイズでは、寸劇を交えて行いました。糸満中学校の方からは、「寸劇があって分かりやすかった。」と言ってもらえました。花笠踊りの披露では、手拍子もしてもらい盛り上がりしました。とても楽しんでもえたと思います。糸満中学校からは、沖縄の文化のクイズを出してもらいました。新しく知ることたくさんあり、学びも深まりました。三線の発表では、皆で歌ったり、手拍子をしたりして、楽しく聞くことができました。60分間と言う短い時間でしたが、良い交流会になりました。

民泊では、久保田さんの家にお世話になりました。初めての民泊で緊張していましたが、とても明るい方ですぐに緊張は解けました。ハンバーグ作り、サーターアンダギー作り、フォトフレーム作り、三線体験をさせて頂きました。三線は、お別れの会の際にも弾いてきました。

今回のセミナーでは、個人の目標を達成出できました。また、五感をフル活用し、学びを深めることができました。平和学習を通して知った「戦争の悲惨さ」と「平和の大切さ」を沖縄だけでなく、山形、南陽からも発信していかななくてはならないと思います。このセミナーでつけた力を日々の学校生活でも生かしていきたいです。



「平和」ということを大切に

南陽市立宮内中学校 2年 安部 杏香

私は、今回のセミナーで「積極性を身に付けること」と「戦争について発信する力を付けること」を目標とし、3日間の研修に参加しました。

1つ目の「積極性を身に付ける」ことは、この3日間のどの場面においても必要とすることでした。研修中に行った何回かのミーティングでは、「自立について」や「平和とは何か」を深く話し合いました。自分の考えを「声」に出して表すことを意識し、他のメンバーの良い考えを取り入れることでお互いの繋がりができ、それによって多面的な見方ができるようになったと思います。自分から学び、それを表に出し、そして認めてもらうことで、これからの自信にもなりました。

3日間の研修のメインでもある2日目は、たくさんの学びを得ることができました。轟壕では、私が思っていた以上にひどい環境で、壕の中は足元が悪くて滑り、低くて移動するのがとても大変でした。戦時中は、現在のように階段も設置されていないので、大勢の人々が避難生活を送る中で、移動するだけでもとても大変だったことがわかりました。ガマの中に入れば、さらに苦しい生活が待っていることもわかり、平和ガイドさんの話をお聞きしていると胸が締めつけられました。死体を見ても何も感じなくなるという感覚が、本当に怖かったです。平和祈念公園とその資料館では、私たちの地域では見ることができない貴重な資料がたくさん展示してありました。正直、心がものすごく痛くなるような、目を背けたくる写真がたくさんありました。戦時中は、そういう光景を目の当たりにしていたと思うと、苦しい気持ちになりました。

交流会では、例年とは違い、約40人在籍するクラスにたった3人で入ることになったので、より一層緊張が高まっていました。教室に入るときに少し戸惑っていると、クラスのみんなが声をかけて明るく迎え入れてくれました。自分たちの学校行事について紹介したり、方言クイズをしたりして、お互いのことをたくさん知れました。発表の準備を進んで手伝ってくれたり、場を盛り上げてくれたりと、沖縄の人々は温かいなと感じました。民泊では、上原さんの家でお世話になりました。ジーマミー豆腐作りは、いつも食べている食べものと食感が違って驚きました。なめらかさがあって食べやすかったです。翌朝には、魚市場に連れて行ってもらいセリを見学させていただきました。南陽市の近くには海がないので、貴重な体験だったと思います。

沖縄の人たちは、戦争があったから平和を大切にしているのではなく、戦争になる前から平和を大切にしていたことがわかりました。貴重な体験をしてきた私たち。「学んできたこと」を、「平和について」を、身近な人たちから発信していきたいです。そして、今にもっと感謝して生活したいです。



たくさんの経験と成長

南陽市立宮内中学校 2年 岡崎 優

私は、今回の中学生地域間交流セミナーの3日間で、たくさんのことを学び、成長できたと思います。

今回の私の目標は、「考えて話ができるようになる」こと、「たくさんの方とコミュニケーションを図れるようになる」こと、そして、「失敗を恐れずに挑戦し最後までやり遂げる」ことの3つでした。この目標を達成するために、4回の事前研修を行いながら話し合いを重ね、考えを深めていきました。そして、迎えた当日、私が特に心に残っていることが、3つあります。1つ目は轟壕、2つ目は糸満中学校との交流会、3つ目は民泊です。

まず1つ目の轟壕では、実際に洞窟の中に入りました。入った瞬間真っ暗だったことに驚き、恐怖を感じました。足元は、上から水がぼたぼたと垂れてきて、滑りやすくなっていました。そこに住んでいた人たちは、上から落ちてくる水滴を奪い合いながら飲んでいた、人の死体から出た液体などを飲んだりしていたとお聞きし、大きな衝撃を受けました。また、戦争中には、約20万人という多くの方々が亡くなっていたことを知り、これからは「今」を大事にし、そして何があっても命だけは捨てることのないようにしていきたいと思いました。

2つ目の交流会では、3人対40人での交流ということもあり、すごく緊張しました。じゃんけん大会を行ったり、互いに自己紹介をしたりしたことで初めの緊張がほぐれ、予定通りの流れで進行することができました。話し合いや発表の場面では、お互いの学校行事、地域や環境について知ることができました。それから、私たちから方言クイズを出したり、糸満中学校の人から寸劇で方言を教えてもらったりして、楽しい時間を過ごしました。笑顔でクイズに答えてくれる姿を見た時は、一生懸命に準備をしていて良かったなと嬉しくなりました。

最後に、3つ目の民泊は、久保田さんのお宅でお世話になりました。私は、民泊するのが初めての体験だったので、慣れない雰囲気の中で始まりました。でも、久保田さんが本当の家族のように接してくださったので、不安や緊張もなくなりすごく楽しい時間を過ごすことができました。沖縄の名物の1つであるサーターアンダギー作りを、久保田さんと一緒にしました。山形にはない味を楽しむことができて良かったです。砂浜に落ちている貝殻を使って作る写真立てのようなフォトフレームを作ったり、三線やサンバという楽器を使って短い曲を演奏したりしました。最後に、海にも連れて行っていただきました。南陽市に住んでいるとめったに見ることのできない、きれいな海を見ることができて、良い思い出になりました。

この3日間を通して、3つの目標を達成することができたと思います。今回の経験を活かして、これからは平和についても深く考えていきます。



私を変えた

地域間交流セミナー

南陽市立宮内中学校 2年 川合 胡春

私は今回の地域間交流セミナーを通して、たくさんのことを学びました。また、沖縄に対する想いも変わりました。その中で、特に印象に残っていることが3つあります。

1つ目は、2日目の平和学習です。まず始めに、平和ガイドさんに案内してもらいながら轟壕に入りました。思ったよりも高さはありましたが、息苦しかったです。さらにライトを消すことによって隣の人の顔も見えないくらい真っ暗で、とても怖くて手足が震えました。戦争のない今でも、生きている心地がしませんでした。まして当時、壕の外では戦争がおこっており、いつ殺されるかわからない状況を考えてみると本当に辛くなりました。平和ガイドさんが、戦争があったということだけではなく、平和が大切だということを伝えてほしいとおっしゃっていました。今は、戦争のことを知らない人も多くなっていると思います。だからこそ、現地に行った私たちから、今がどれだけ幸せかということを伝えていきたいです。平和がどれだけ大事かということも。

2つ目は、糸満中学校との交流と民泊です。この2つでは、沖縄の方々の温かさを感じました。交流会では、緊張している私たちに、「おいで。」や「入っていいよ。」などと優しく迎えてくれて、クイズにも真剣に参加してくれて、とても嬉しかったです。また、私たちが、日常生活で当たり前だと思っていることも、糸満中学校の人たちから質問で聞かれました。やはり、気候が違くと学校の生活の仕方なども変わってくるのだとあらためて感じました。民泊では、本当の家族のように過ごさせていただきました。沖縄と山形の違いや、自分の家族についてなど話をたくさんしました。「お父さん」と「お母さん」には、家族の大切さを教えていただき、大切な時間になりました。

3つ目は、仲間の大切さです。3日間で、話し合う場面が多くありました。最初は、自分たちで進めていくことが大変でしたが、回数を重ねていくうちに中身の濃い話し合いをすることができました。そして、仲間の考えを共有することで、自分の考えも広げることができました。

最後に、このセミナーで得たたくさんの学んだことを、私たちが発信源となり発信していきたいです。そして、山形と沖縄をつなぐ架け橋になっていきたいと思います。この貴重な体験をすることができて本当に良かったです。中学生地域間交流セミナー事業に関わってくださいましたたくさんの方々、本当にありがとうございました。学んだことを忘れずに、これからの生活に生かしていきます。日常を普通に過ごしていることの幸せを、感謝しながら過ごしていきます。そして、一緒にセミナーに行ってくれた仲間にも感謝しています。この12人のメンバーだったから、私は成長できました。この11人と出会えたことは、奇跡だと思います。このセミナーをきっかけにして、出会いや交流を大事にしていきたいと思います。



今がある幸せに

感謝すること

南陽市立宮内中学校 2年 小関 紅加

とても中身が濃く、充実した3日間を過ごすことができた地域間交流セミナー。このセミナーの目的である「自立した人材」になること、そして、私個人の目標である「コミュニケーション力を付ける」ことや「地域の発信をする」ことが達成でき、平和とは何かを考えることができました。

私が、セミナーの中で一番印象に残っているのは、「平和学習」です。轟壕は、隣の人でさえもまったく見えないくらい真っ暗な洞窟でした。そこに、大勢の人が長い間暮らしていたとお聞きし、どのような思いで洞窟の中にいたのかを考えると、胸が締めつけられました。ガイドさんが、「戦争は、人間を人間でなくする。」という話をしてくださいました。人と人が命を奪い合い、感情をなくす。あり得ないと思う反面、もし私がそこにいたらと思うととても怖くなりました。

平和祈念公園と資料館では、写真や映像を通して戦争の悲惨さを痛感しました。平和の礎には、国を問わず戦争で亡くなった方々の名前が刻まれていました。それを見ていると、かつてこんなにもたくさんの方々が亡くなった中で、私たちは大切な命のバトンを受け継いでいることに気付かされました。当たり前の日を送れていることに感謝し、本当は当たり前ではないということを感じるようになりました。

糸満中学校との交流会では、うまく伝えられるか、進められるか、不安がたくさんありましたが、お互いの地域のことを深く交流することができました。最初、パソコンの不具合で映像が映らないトラブルもありましたが、方言クイズをするなど落ち着いて柔軟な対応をすることができました。糸満中学校にはたくさんの行事があり、伝統を大切にしていることがわかりました。

民泊では、鈴木さん宅にお世話になりました。初めは、緊張が大きかったですが、鈴木さんご家族が優しく物知りな方々ですぐに解けました。沖縄ならではの菓子を作ったり、スーパーに行ったり、さとうきびを収穫したりして、本当の家族のように一日を過ごすことができました。とても短い時間でしたが、本当に楽しく充実した一日で、別れるのがとても辛かったです。この良い思い出を大切にしていきたいです。

私が思う平和は、「当たり前の日常を過ごせる」ことだと思います。日常の中にある、普段気付かない小さな幸せも大切に、これから生活していきたいと強く思いました。沖縄の資料館に、「戦争をおこすのは人間だが、戦争を許さない努力をするのも人間だ。」という言葉が書いてありました。私は、もう戦争がおこってはいけないと思います。今回学んだたくさんの方のことを、身近な人から始めて、たくさんの方に発信していきたいです。今回のセミナーでは、人として大きく成長できました。この体験を日常生活にも生かし、さらに成長していけるように頑張っていきたいです。



命どう宝

南陽市立宮内中学校 2年 佐藤 千寛

1 1人の仲間と意見を出し合い、自分自身の考えをもう一度確認し直すなど、中身の濃い4回の事前研修会を終え、やっと迎えた中学生地域間交流セミナー当日。沖縄は、歴史や食、自然など、南陽市との違いがたくさんあるということを感じることができました。また、自分の考えやコミュニケーション能力など、今までの自分を上回り、自分の殻を脱いで成長することができました。

3日間という短い時間でしたが、私が、特に心に残っているのは、平和のことについてです。事前研修会でも学習しましたが、実際に防空壕「ガマ」の中に入ったり、ひめゆりの塔、山形の塔に行ってみると、行った人にしか味わえないことがたくさんありました。例えば、ガマでは、中は真っ暗でひとすじの光もなく、湿っていて蒸し暑かったです。沖縄の人々は、その中に避難し我慢して身を隠していたそうです。そこに、兵隊が押し寄せて入ってきて、住民たちは湿った場所に追いやられました。子供の泣き声で見つかる恐れがあるからと子供を殺せと命令され、殺さなければならなかったという残酷な話を聞き、私は言葉を失いました。ガマから外に出て、自分たちは「生きている」という実感、「平和とは何か！」についての考えを深めることができました。自分の子どもを殺さなければならない親の思いは、どのようなものだったのか、殺されようとしている子どもの思いはどのようなものだったか・・・想像しただけでも残酷で、自害した親もいたかもしれないと思うと、とてもかわいそうで、私はこの複雑な気持ちを伝えたいという思いでいっぱいでした。

もう一つこんな話を聞きました。皆さんは、「命（ぬち）どう宝」という意味がわかりますか？「命（ぬち）どう宝」とは、命よりも宝のものはない、命を粗末にするべきではないという意味です。この言葉は、一人のお婆さんが言った言葉だそうです。そのお婆さんは、米軍に立ち向かって行って手をあげながら言ったそうです。殺されるかと思われましたが、米軍の人は殺さず食料を与え、それを見た人は同じように行動し、全員助かったということです。この話を聞いて、お婆さんから命を大切にすることを学びました。現代でも、人の悪口、いじめなどをしないで、一人ひとりが思いやりの心や融和の心、気遣いを持って、生活していかなければならないと思いました。また、言葉というのはとても重いものだと言うことを、あらためて気付きました。

私は、平和について深く考えることができ、また自分の考えを伝える力やコミュニケーション能力が高まったと思います。これからは、お婆さんが言っていた「命（ぬち）どう宝」という言葉を忘れずに、自分の考えを多くの人に発信していきたいと思います。



たくさん出会い、成長が できた3日間

南陽市立宮内中学校 2年 鈴木 琴音

この中学生地域間交流セミナーを通してたくさんの方のことを学ぶことができました。面接から始まり、説明会や結団式、事前研修会、事後研修会を経た今、私は大きく成長したなと感じられます。自分の目標でもあったように、「コミュニケーション力」、「人と関わる力」を、様々な場面で達成できたと思います。

この3日間の中で、平和学習が印象に残りました。今の生活とは真逆で、とても辛い毎日だったのだとそれぞれの場所で感じました。特に、轟壕では、それを自分の身体、心から感じる事ができました。私は、足元がとても悪くライトがないと見えない状況の中で、「ここに本当に人がいたのかな」と思うくらいの衝撃を受けました。平和ガイドさんの話を聞いていると、本当に胸が痛くなりました。当時は、このガマに約1000人以上の住民や日本兵が避難していたそうです。私たちだけの人数で入ると広く感じましたが、その話を聞いた瞬間狭く感じました。もし、私が、その場にいたらと考えると、恐怖にしか思えませんでした。それくらい当時の方々は、苦しい中で辛い思いをして生きていたのだなと感じました。

平和祈念公園では、平和の礎を見学してきました。そこには、沖縄戦で亡くなったすべての方々の名前が区別なく刻まれていました。戦争がない今こうやって、平和についての歴史が形として残っているのは奇跡だなと思いました。他にもたくさんの方所に行き、一つひとつ平和について考えながら勉強することができました。その中で、あらためて今平和に暮らしている感謝の思いが強くなりました。

次に、準備を頑張った糸満中学校との交流会です。2年生は4クラスあり、私たちより人数がとても多く40人のクラスに入りました。最初は、とても緊張していて上手に話せずにいました。でも、糸満中学校の人たちが真剣なまなざしで見てくれていて、しっかりと山形のことを伝えないといけないと思い緊張がほぐれました。山形や南陽のことをしっかりと伝えられたと思います。クラスの人たちは、みんなとても明るくおもしろい人たちで、楽しい交流会になりました。

民泊では、金城さんの家に泊まらせていただきました。最初は不安もありましたが、金城さんが自分の子どものように接してくれてすぐに馴染むことができました。一緒にご飯を作ったり、三線を体験したりして、家族の温かさを感じることができました。

この3日間を通してたくさんの方の出会いがあり、たくさん成長することができました。私は、学んだことをこれから周りの友達や家族に伝えていけたらと考えています。少しでも戦争の辛さ、今平和で生きていられる幸せについて、一人一人に考えてもらえるように自分から発信していきたいです。今回ずっと一緒に研修した11人の仲間がいたからこそ、目的や目標が達成できたのだと思います。本当にありがとう。

「子どもたちの姿から」

南陽市立沖郷中学校 教諭 寒河江 佳緒里

三日間の研修を終え、南陽市役所に帰ってきた生徒たちの表情が、今でも忘れられません。心地よい疲労感と、久しぶりに家族のもとに帰ってきた安心感、そして何より大きな達成感をにじませた12名の姿は、三日前とは別人のように大人っぽく見えました。

彼女たちの出会いは一か月ほど前に遡ります。南陽市役所で行われた事前説明会で初めて会ったときの12名は、まだよそよそしく、「旅行気分」が抜けない様子でもありました。しかし、事前学習会を重ねるごとに、自分たちに課せられた使命や、選ばれた責任感を自覚するとともに「もっとこうしたい」「もっとこうなりたい」という目的や目標が一人ひとりの中で明確になっていったように思います。特に、二日目に予定されていた糸満市立糸満中学校2年生との交流会の内容が、今年度は大きく異なり、約50分間を3人ずつでコーディネートするという形式になりました。教員ですら、知らない土地の知らない中学生たちに50分間授業をしなければならないとなれば、大きなプレッシャーです。生徒たちも最初は戸惑い、不安がっていました。グループごとに趣向を凝らした計画を立てる中で、「もっと～したい」がどんどん出てきて感心しました。出発前のバスの中では、この三日間の中で「糸満中との交流会が一番楽しみ」という生徒の声も聞こえてきて、大変頼もしく感じました。やらされる、のではなく、自分たちがやりたいからやる、という姿勢はこのセミナーにおいて必要とされる資質の一つであり、この12名にはそれが確かに育っていた事前の一か月であったと思います。

沖縄に着いてからの三日間は、まさに光陰矢の如し。目にするもの、耳にするもの、全てに「あっ」と言っている間に過ぎ去ってしまったように感じます。

一日目。那覇に降り立った瞬間から南国沖縄の暖かさに、上着を脱ぎ始める生徒たち。ガイドさんが魅力たっぷりに紹介して下さる沖縄の文化や歴史に、興味津々の生徒たち。夜のミーティングでは眠気も忘れて、真剣に話し込む生徒たち。二日目。轟壕や平和祈念資料館、山形の塔、ひめゆりの塔などにおいて肌で感じた「平和」の尊さに、思慮深く考え込む生徒たち。懸案であった糸満中との交流会を無事に終え、各クラスでのハプニングを面白おかしく報告し合う生徒たち。三日目。民泊での一晩の思い出が一生の思い出になったと物語るかのように、民泊先の家族が見えなくなるまで車窓から手を振る生徒たち。そして、故郷に戻り「寒い、寒い」とどこか嬉しそうに口にする生徒たち。

どの生徒の横顔も一生懸命で、沖縄の青空にも負けないくらい輝いていたように思います。この三日間、そんな素直で元気いっぱいの南陽市の中学生たちの成長と頑張りを、教員としてすぐそばで見守る機会を頂けたこと、私自身、改めて感謝の思いでいっぱいです。

最後に、今回、御縁があって女子12名の引率をさせて頂きました。南陽市は昨年「女性活躍のための共同宣言」を表明しています。私も参加生徒12名と同じ「女性」として、何らかの形でこの経験を南陽市の教育に還元できたらと思います。貴重な勉強の機会を頂き、ありがとうございました。

アルバム









